

ゼネコンで銅をとりだそう。

～ イオンをうごかすにうんと
エネルギーがいるぞ ～

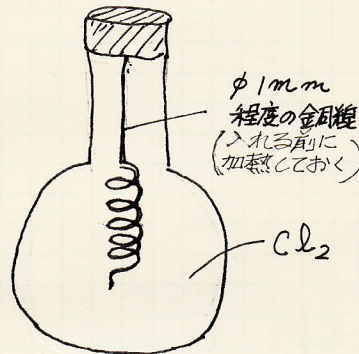
ゼネコン(手回し発電機)は、これまでにいろんなことに使ってきている。電流と仕事(発熱)においては、ニクロム線につないで、紙のをやし、こを、うしオをならしてみよう。電流と磁界においては、ゼネコンの音を聞こうと、スピーカーにつないでみて、また、2つをつないで 電動機—発電機の関係を、カエルの解剖では、電気刺激にと、使いみちは色々と考えられる。ここでは、塩化銅の電気分解に使う。まず、図1のようにして、「金属」から「

しおの仲間」をつくりだす。そこへ水を入れ

塩化銅水溶液をつくる。そこから、銅をとりだす。これまで、直流電源で5~6Vの電圧をかけて、やっていた。

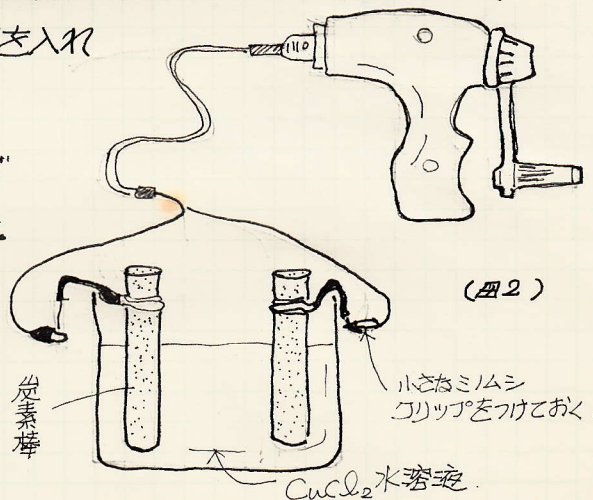
ところが、これでは、その変化を静観するのみであった。ここでは、それにプラス、「ゼネコン」でやってみた。これで、目に見えぬイオン

をうごかす。そんなつもりでやらす。時々、極の炭素棒をあげてみる。いかにイオンをうごかすのがたいへんかわかる。手ごたえが、まったくちがうのである。銅をたくさんとりだそう。どこの部が一番たくさんとりだせるかと、ハツパをかける。ゼネコンをまわしすぎ、ねじは、はぶれるし、たいへんな過熱ぶりであった。



(図1)

ゼネコン
(マフモーター 4550)



(図2)